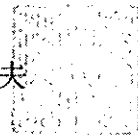


湯 建 第 6 9 8 号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

湯沢市長 鈴木 俊 夫



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありました標記について、別添のとおり提出いたします。

1. 豪雪地帯である当地域では、冬季でも安心して通行できる道路づくりを重点的に実施してもらいたい。併せて、現在、市単独費で対応している除雪費に対する、応分の補助制度が必要である。
2. 市道整備については、主に地方道路整備臨時交付金事業で対応しているが、国庫補助金(交付金)を差し引いた本市の持ち出し部分に係る財源の捻出に苦慮しており、補助率の嵩上げやより有利な起債が必要である。
3. 秋田・山形県境の国道13号峠部は、道路が1本しかなく代替路線がないため、災害時等を考慮すると別路線の整備が必要である。東北中央自動車道をネットワークとして、しっかり位置付ける必要がある。
4. 地域住民に必要不可欠な生活交通路線を確保するため、助成措置を継続するとともに、一層の充実・強化を図る必要がある。
5. 道路特定財源の見直しにおいては、地方の必要とする道路整備が引き続き計画的に実施できるよう、地方の意見を踏まえ、地方税財源を拡充する方向で措置すること。

○現状

1. 克雪対策

本市は県内でも有数の豪雪地帯であり、冬期間の道路は、路面の凍結、深雪を車両が通行したことによる路面のわだち、除雪により路肩に寄せられた雪での道路幅員減少、吹雪による視界不良などさまざまな障害があります。市内の移動や物流のほとんどを自動車に依存する本市では、道路の交通確保により通勤、通学をはじめ、生活、産業経済活動が支えられています。

このため、除排雪体制や防雪施設を整備し、冬期間の交通確保に優先して取り組んできましたが、市民要望は依然として高く、さらなる充実が求められています。

2. 道路網の整備

本市は、宮城、山形の両県に接し、秋田県の南の玄関口として、地域外との交流が活発に図られる可能性を有しています。

このため、市内の主要箇所を結ぶ幹線道路や生活道路を計画的に整備しておりますが、市民からは依然として、円滑な交通の確保と利便性の向上が求められています。

○課題

1. 克雪対策

【防雪施設の整備について】

防雪柵や流雪溝などの整備は、地方道路整備臨時交付金事業等に対応しておりますが、市の一般財源分の捻出が課題となっております。

【除排雪対策について】

現在、除雪費は市単独費で対応しておりますが、厳しい財政状況下では、市民が安心して通行できる除排雪を行うための財源確保が課題となっております。

2. 道路網の整備

市道整備につきましては、主に地方道路整備臨時交付金事業等に対応しておりますが、国庫補助金(交付金)を差し引いた市の一般財源の捻出が課題となっております。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

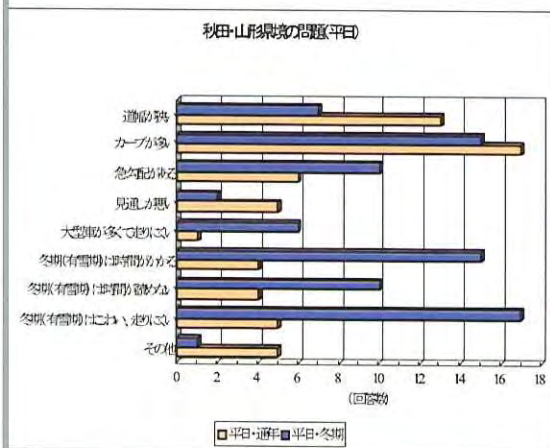
様式 ②

秋田県 湯沢市

○現状

3. 秋田～山形県境区間の道路現状

- ・急勾配区間や降雪による視距不足区間などが存在
- ・冬期間は積雪の影響により、車の走行速度 10 km/h 程度低下
- ・積雪路面での追突など、スリップが原因となる事故が発生
- ・県境近辺において雪崩や大雨による通行規制が過去6回発生
物流や観光に大きな損失を与えている



○課題

1. 自動車交通への依存が大きい当地域にとって、道路網、特に高規格幹線道路や直轄国道の整備を図ることは、地域間の交流や産業、経済発展のためにも最も重要かつ緊急の課題であります。
2. 都会と地方の格差が広がっていることを、身を持って体感している市民にとって、高速道路を初めとした高速交通網の整備は悲願であり、国が責任を持って取り組むべき最重要課題だと思います。
3. 秋田・山形県境の国道13号峠部は、道路が1本しかなく代替路線がないため、災害時等を考慮すると別路線の整備が必要である。東北中央自動車道をネットワークとして、しっかり位置付ける必要がある。

【地域住民の声】

- ・災害等で通行止めになった場合は、会社は倒産を免れないため、早く高規格道路として新庄市につながってほしい。
- ・高速道路は連結をしていなくては意味がありません。一日でも早く、癒しの郷 湯沢雄勝に大勢の方が足を運んでくれればと思っています。
- ・「日本の食料供給基地」として国内、特に都市部の命を支える「責任ある地域」として、地方と都市を結ぶ高速ネットワークは、今後益々重要視されることは必至です。
- ・地域間交流の創出や地域経済発展のためには、高速道路は必要不可欠なものであります。

②－１ 地域の現状と抱える課題

秋田県 湯沢市

○現状

４．地域生活の足の確保について

生活路線バスについては、その公共性から国と地方の補助金交付で運行を維持しているが、車社会の進展に伴う自家用自動車の普及や少子化等により利用者が年々減少傾向にある。

バス事業者は、利用者減少による赤字路線の増大に伴い、路線の再編など経営改善を行っているが、近年の原油価格の高騰の影響もあり、生活路線を維持することが困難な状況になってきている。

また、自治体においても厳しい財政事情を踏まえつつ、交通空白地域の解消や地域内公共交通システムの見直しなど地域住民の一層の交通利便性の確保と向上に取り組んでいるところであるが、路線バスを取り巻く状況は一段と厳しいものとなっており、市の負担も年々増加しています。

○課題

１．路線バスは、地域公共交通における主要移動手段として市民生活に必要不可欠なものであり、移動制約者の公共交通対策として、その確保は重要な課題となっています。

２．今後も高齢化が進むなかで、路線バスは、地域住民の日常生活に必要不可欠な交通機関として重要な役割を果たしているし、地球温暖化対策やエコ環境整備に対する関心が深まるなか、バスへの移動手段の見直し、促進が求められてきていることから、地域の生活交通の維持・確保のため、国・県の助成措置の充実・強化を図ることが課題となっています。

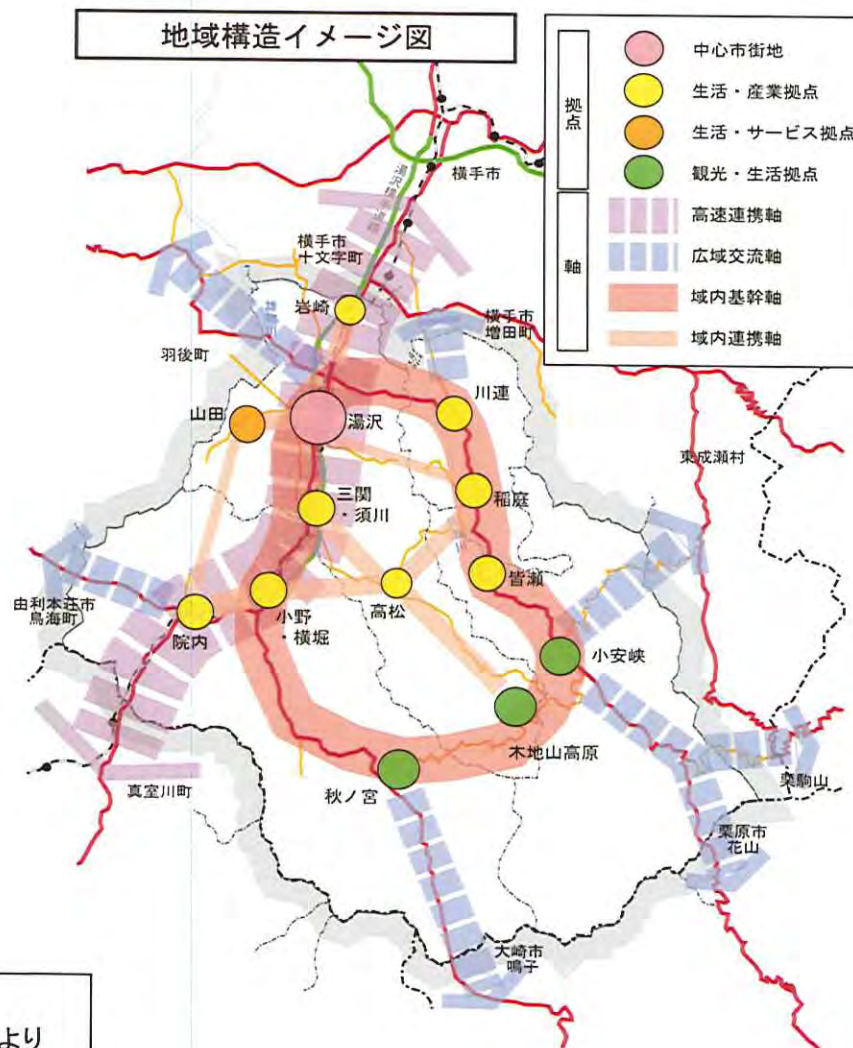
市役所と湯沢駅を結ぶ軸を中心としたエリアを「中心市街地」とし、各種の都市的拠点機能の整備を図り、市を象徴する空間の形成を目指します。

各総合支所のある地域や主要集落を「生活・産業拠点」と位置付け、定住環境の整備や地場産業の振興などを重点的に進めます。雄勝中央病院のある山田地区は、医療・福祉サービスも含めた「生活・サービス拠点」と位置付けます。秋ノ宮、木地山高原、小安峡は、それぞれが自然型の観光と生活を融合させた「観光・生活拠点」として、観光施設と生活環境が調和したエリアと位置付けます。

また、これらの「拠点」を結ぶ「軸」の機能を、主要な道路や公共交通機関の整備充実により強化します。国道13号、JR奥羽本線に沿って、横手市、新庄市方面と結ぶ軸は、東北中央自動車道の県境を越えた整備や山形新幹線の延伸を促進する意味も含めて、「高速連携軸」と位置付け、広域交流の主軸とします。そのほか、国道108号や国道398号をはじめ、主要な国・県道に沿って周辺地域と結ぶ軸を「広域交流軸」と位置付け、安定して迅速かつ安全に交流・連携できる条件を整備します。

中心市街地と主要な拠点を環状に結ぶ「域内基幹軸」の機能を整備し、生活、産業、観光などの域内流動・連携の主軸としていきます。また、これを補完する「域内連携軸」を主要な県道ルートに沿って位置付け、市内のネットワークを拡充させていきます。

「湯沢市総合振興計画」
第4章目指すべき地域構造より



○重点事項 ・克雪対策 ・高速交通体系の整備	○代表事例 流雪溝及び防雪柵の整備 秋田(湯沢市)・山形(新庄市)間 高規格道路の全線開通	○期待する効果や評価等 1. 冬期の安全で快適な交通の確保 2. 冬期の交通障害の軽減 1. 交通環境の向上と移動時間の短縮 民家が建ち並び、冬期期間には道路の幅員狭小による走行速度の低下の解消及び新庄IC～湯沢IC間(58km)は、現国道13号利用と比べ約35分の時間短縮となります。 2. 地域間交流や観光産業への効果 湯沢市、新庄市周辺地域間の交流を促すと共に、西栗駒に広がる多くの観光資源へのアクセス性を向上させ、観光産業の活性化に寄与いたします。 3. 救急医療面への効果 湯沢横手道路に設置した救急車退出路により「雄勝中央病院」への患者搬送時間が短縮され、一分一秒を争う救急医療に大きく貢献いたします。 4. 災害等に脆弱なネットワークの解消 一般国道13号秋田～山形県境では、雪崩や大雨等による通行規制が過去6回発生し、物流や観光に大きな損失が生じ、迂回路となる一般国道108号も災害に弱く、災害等に対する地域の道路ネットワークの構築。	○その他
--	--	--	-------------

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

秋田県 湯沢市

○重点事項 ・地域の生活の 足の確保	○代表事例 生活バス路線の運行維持	○期待する効果や評価等 1. エコ環境整備 2. 高齢化社会への対応	○その他
--------------------------------------	---------------------------------	--	-------------